



今回のテーマ

外国語活動の授業を改善する工夫

2011年4月に外国語活動が5・6年生で必修化されて以来、約1年半が経った。

文部科学省から提供された「E, Friends!」を使って、どのように授業を構成すると良いか、指導を見直している学校も多いという。今号では、子どもの様子を丁寧に見取り、外国語活動の授業を改善している事例を紹介する。

事例 長野県佐久市立白田小学校

児童の実態を基に、聞く活動の改善点を部会で話し合う

教師に試行錯誤がある時こそ
子どもの実態把握が重要

佐久市立白田小学校は2010年

度から外国語活動の授業研究に取り組んでいる。研究1年目に、教育委員会会の指導主事や英語教育の研究者の助言を得ながら、授業展開案「白小プラン」(図1)を作成。外国語活動で最も重要なコミュニケーション力を付けるには、「相手のことを知る楽しさを持ち、繰り返し聞き慣れることが大切」との立場から、いかに楽しくかわりながら聞き慣れ

させていくかを工夫し、日々改善の努力をしている。研究は子どもの実態に応じて進めることを強く意識している。伊藤和子校長は話す。

「外国語活動は始まったばかりですから、先生方は試行錯誤しています。だからこそ、子どもの反応を丁寧に見取り、授業に反映させる必要があると考えています」

授業では毎回、「外国語活動ふりかえりカード」(図2)を配布し、子どもに、授業の楽しさや聞くことなどの評価、授業で良かったことや困ったこと、友だちの様子を見て気

付いたことなどを書いてもらう。このねらいを、5学年担任で研究主任の仲沢いずみ先生は次のように話す。

「段階を踏んで聞き慣れさせた活動が良かったか、ねらいがきちんと達成されたかなど、外国語活動のねらいや子どもの困り感を把握し、授業改善に生かしています」

研究部会は週1回、「外国語活動ふりかえりカード」を見ながら児童の実態を把握し、外国語活動を通じた相互理解や異文化理解が更に深まるよう、アクティビティやカルチャートークなどを検討(図3)。「白小

プラン」を改めていく。こうした改訂の意義を、6学年担任で教務主任の高橋英敏先生は次のように話す。

「子どもの実態に応じて授業を変えることで、より多くの子どもが友だちとのコミュニケーションを楽しめるようになると考えています」

井出眞一教頭は、研究の成果を次のように話す。
「子どもが英語に親しむにはどうすべきかを考え、外国語活動に積極的に取り組む先生が増えました。丁寧に子どもを見取り、研究を重ねたからこその変化だと思えます」

図1 白小プラン(2012年度版)

研究部会で挙げられた授業の改善点を反映して作成する授業展開案。1回の授業を「Greetings」から「Reflection」まで5～6のパートに分け、活動内容と使用教具を示している。子どもが英語に親しみ、「聞く」から「伝える」まで段階を踏んで徐々に学んでいけるように心掛けている。2012年度は、「英語ノート」から「Hi, friends!」への変更を、改訂に反映させている

図3 研究部会での話し合いの内容

◎「I want ~」の表現を扱う単元の例

1時間目の内容

ショッピングゲームで、いきなり「I want ~」を使ってほしい物を伝え合う活動をしたところ、子どもに戸惑う様子が見られた。授業の感想にも、「新しく習った言い方がよく分からなかった」といった声が目立った。もっと「I want ~」の表現に慣れさせる必要がある

聞く活動、聞いて判断する活動、友だちのことを知る活動と、段階を踏めるよう変更

2時間目の内容

カルタを使って「I want ~」の表現をたくさん聞かせる活動、カードを組み合わせ、「I want ~」と言われたパフェを作る活動などを取り入れ、子どもが「I want ~」をたくさん聞く機会を増やした。「友だちの好きなフルーツを使ってパフェを作り、感想を聞くことが出来て良かった」など、満足したという感想が多かった

*同校の資料を基に編集部で作成

School Data

長野県佐久市立白田小学校



◎1872(明治5)年に開校した歴史ある学校。長野県東部に位置する。子ども同士が互いの話をよく聞き、相手に自分の考えを伝えられるようになるために、外国語活動の研究に力を入れている。

校長 伊藤和子先生
児童数 237人
学級数 12学級(うち特別支援学級2)
教員数 23人
所在地 〒384-0301
長野県佐久市白田264-3
TEL 0267-82-2024
URL <http://usudasho.sakushi.ed.jp/>
E-mail usudasho@sakushi.ed.jp
公開研究会 2012年10月10日(水)



佐久市立白田小学校研究主任・5学年担任
仲沢いずみ
子どもにとって楽しい授業をつくるために、まずは教師自身が楽しみながら研究を進めていきたい



佐久市立白田小学校教務主任・6学年担任
高橋英敏
「目の前の子どもをしっかり見取り、子どもの課題に応じて、先生方と力を合わせて授業を改善していきたい」



佐久市立白田小学校教頭
井出眞一
「子どものつまずきや教師の困り感から、課題を設定して追究していきたい。それが研究の日常化につながる」



佐久市立白田小学校校長
伊藤和子
「どの先生方も当事者意識を持ち、外国語活動の研究に取り組めるような体制づくりを心掛けています」

授業研究に学校全体で主体的に取り組むために「心掛けています」

テーマ「行ってみたい国」第2時 担任のみ

ねらい: ① I want to go to の表現を知り、聞くことに慣れる
② 友だちに行ってみたい国を紹介しようという意欲を持つ

活動	内容	使う物
Greetings	●お互いにあいさつ (How are you? I'm ○○)	
Warm up	●色、形をヒントにした、国旗のクイズ ※徐々に、その国の有名なものをヒントと出し、前時の復習とする	国旗のカードなど
Today's goal	●行ってみたい国を紹介することで、お互いをもっと知ることができることを確認 ●どんな表現を使えば、行ってみたい国を紹介できそうか、学習することを確認 行ってみたい国を紹介する時に使えそうな表現をたくさん聞こう	
Activity1	●担任の海外体験を通して I want to go to の表現を紹介 ●国旗をキーワードにしたキーワードゲーム ※時間があれば Yes, No ゲームを行う	国旗カード、写真
Activity2	●言われた国の有名なものをとるカルタ	有名なもののカルタ
Culture Talk	●行きたい国を聞いて、どの先生の希望かを当てるクイズ ※自分はその国に行ってみたいかを質問する	国旗カードなど
Reflection	●行ってみたい国を紹介する時の表現をたくさん聞けたかを振り返る	ふりかえりカード

*同校の資料を基に編集部で作成

図2 「外国語活動ふりかえりカード」

外国語活動ふりかえりカード

(4月19日)

年 組 名前

1. 今日の授業をふりかえって、当てはまるところに、色をぬりましょう。

	ベリーグッド	グッド	まあまあ
①授業中の活動に遠んで参加し、楽しめましたか。	☺	☺	☺
②先生や友達と話したことを、しっかり聞きましたか。	☺	☹	☺
③英語の音やリズムを、まねできましたか。	☺	☺	☺
④英語の意味が、だいたいつかめましたか。	☺	☺	☺
⑤日本と外国の、言葉や文化の違いに気付きましたか。	☺	☺	☺

2. 今日の授業の中で、自分がかんばったことや、困ったことについて、書きましょう。

ニュージーランドの文化のちがいに気が付きました。ニュージーランドには動物がたくさんいて豊かだと思いました。

3. 今日の授業の中で、友達がかんばったことや、良かったことについて、書きましょう。
ほかの友達が、色んな英語にチャレンジしていてすごいなと思いました。私もかんばりたいです。

友だちの姿から学ぼうとする気持ちを伸ばそうと、自分のことだけでなく、友だちの様子を見て気付いたことも書いてもらう *同校の資料をそのまま掲載